



あいせんだより



令和3年 5月号

新緑の美しい5月。元気にあそぶ子どもたちの姿に、さわやかな風が吹き抜けます。ゴールデンウィークを楽しく過ごした子どもたちは、休み明けに、心身ともに少し不安定になることがあります。ご家庭と連携をとりながら、子ども達の様子には気を配っていきたいと思います。

<今月の予定>

13日(木) 内科健診

20日(木) お散歩遠足 さくら・こすもす

21日(金) // ひまわり・すずらん

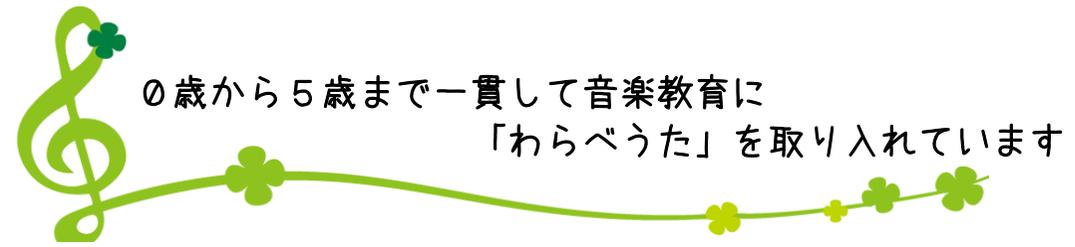


避難訓練に参加しました!

今年度はじめての、隣家の火災を想定した避難訓練を行いました。サイレン音に驚いて泣いてしまう子もいましたが、保育者に励まされながら無事に避難出来ました。幼児組の中には非常滑り台を使用するクラスもありましたがスピードをコントロールしながら上手にすべることが出来ました。



わらべうたをうたいながら、子どもの身体に触れたりすると、子どもの脳はリラックスし安心すると言われています。



0歳から5歳まで一貫して音楽教育に「わらべうた」を取り入れています

長い年月をかけて歌い継がれてきた伝承のわらべうたは、日本語の美しいリズムと抑揚があり、うたの旋律と言葉のリズムとが一体となっているため、子どもにとって聞きやすく歌いやすい音楽です。

乳児のわらべうた

乳児のわらべうたは、情緒を豊かにし、素朴なわらべうたを喜びとして受け入れられる環境を考え、子どもたちが道具(遊具)を使って自由に遊んでいる中で遊びのイメージ、雰囲気を大事にして歌ってあげたり、子どもの動きにあった「となえ」や「ごろ合わせ」を言ってあげたり、遊ばせ遊びをしながら、子どもの感覚、リズム感、鼓動の脈動などを発達に応じて行っています。



わらべうたはその子の為に歌ってあげます。周りで遊んでいる子は、大人の優しい歌声に耳を傾けたり、側に来て様子を見ています。



幼児のわらべうた

幼児のわらべうたは、子どもの鼓動を大切に、その年齢にあった音域で音楽的に遊戯性をもって計画し、ねらいを持って課業を進め、大人、友達と一緒に遊びます。ねらいの中には、鼓動、うたのリズム、音色、高低、大小、早遅、内的聴感等があります。



友だち同士のわらべうた遊びは、社会的ルールや他人への思いやりを学ぶこともできます。

なぜわらべうたが良いのか

わらべうたは限られた音域でできています。童謡のようにリズムカルで音域が広い歌は、楽しく聞こえますが子どもの喉にとっては負担なものです。誰にとっても歌いやすく心地よいわらべうたは、赤ちゃんにとっては1対1のぬくもりを感じさせ、幼児にとっては集団でルールを守って遊び歌など、遊び方は色々です。楽器を使わずにどこでも歌えて遊べるわらべうた。知っているとなりに立ちます。また、わらべうたは人の声で伝承する日本人の文化です。民族独特の言語的刺激も得られます。



お願いします

<CODOMON 連絡について>

・降園後にお迎えの方が変わる場合は、保育園まで電話連絡をお願いします。

◎ 爪の手入れ・耳の掃除は、曜日を決めて週1回、爪の手入れと耳掃除をするようにしましょう。曜日を決めることによって、忘れることが少なくなると思いますので、是非、取り入れてみて下さい。

◎ 髪の毛の長いお子さんは、登園する時は結んで来て下さい。これからの時期は気温も高くなります。遊ぶ時、汗の始末をする時、食事の時など結んでいた方が子どもたちは快適に過ごせます。ご協力をお願いします



えほんのせかい

まだ物の認識が分からないうちから、絵本は早いと思う方もいらっしゃると思いますが、園の生活の中で、0才からの絵本はやはり大切だと思うのはこの時期に毎年感じる事です。まだ慣れない部屋の環境で慣れていない担任達とのコミュニケーションツールとして役立ちます。

これはわらべうたと並ぶくらい子ども達にとってはすんなりと入り込める宝物です。

担任の膝に座って読んでもらう度に、共通のものを楽しんだ担任との距離が近くなっていくように感じるのは気のせいではありません。これは親子でも生まれるものです。忙しい毎日のなかでもあえてゆっくりと絵本の世界をお子さんと楽しんで頂きたいと思っています。



KITCHEN LETTER

SDGs 持続可能な開発目標 ~給食室でできること~

「SDGs」という言葉は随分と耳にする事が多くなったのではないのでしょうか。未来の為に世界が共通で作った目標です。何だかこの意義を聞いただけでワクワクしますが、それだけで終わらせる訳にはいきません。

園の給食で何が出来るか？まずは大人が出来る事を考えてみました。園の給食は大量調理ですから、材料の搬入方法、調理員の手指の消毒、布巾の消毒方法から調理方法に至るまで細かいルールがたくさんあります。家庭のように残ったおかずやご飯は冷蔵庫に入れて明日食べようということは絶対にできません。残ったものは全て廃棄となります。登園してくる人数が読めないと、廃棄がそれだけ多くなり、廃棄量を見るだけでも本当に良い事ではないと思わされます。愛泉ではできるだけこの廃棄を少なくする為に、登園の人数に合わせて調理する食材を納めてもらう努力をしています。これはSDGsの12番「つくる責任 つかう責任」に当たります。保護者の皆様にも協力して頂き、お休みはできるだけ早い段階で園までお知らせ頂き、この園での取り組みにご協力頂きたいと思います。未来の子ども達の住む世界が豊かであることを願い、まずはここから。



あそびこそ学び ~遊びの大切さを大人が理解する~

今年の幼児クラスはクラス替えからスタートしました。蓋を開けてみると、遊び方にも前のクラス独特のカラーがあり、積み木ひとつとってもまだそれぞれのカラーを展開しています。担任の見解では、この世界観の違いをどううまく融合していくかがとても楽しみで、大人がどうアプローチしていくか、タイミングをうかがっている最中だとか。各クラスの新しいカラーが誕生しそうです。

